

少し面倒くらいが良い



年寄り、1週間も寝込めば、

足腰が弱って歩けなくなる。頭を使わなければ、忘れっぽくなる。

75歳のA子さん。遠方に住んでいる息子夫婦に連れてこられた。

「聞いたことをすぐ忘れるようになった」という。が、認知障害の程度は軽い。頭部をMRI（磁気共鳴画像装置）で調べても、脳の萎縮はみられない。日常生活に支障はなく、認知症とはいえない。ただの、年相応のもの忘れか。

で、Aさんに、「頭も使わないとダメになる」と言ったら、「どっついたら頭を使えるか?」と、叱られてしまった。Aさんは、5年前に夫に先立たれ、ずっとマン

生涯現役を宣言

ションでひとり暮らした。しかも、

「隣は何をするひと派」である。

めったにひとと話をする機会がない。趣味もなければ、読書も嫌いだ。日記なんてとんでもない。膝が痛いからといって、外出もしない。買い物も家事も、ヘルパーさん頼りの毎日なのだ。

することがなければ、頭を使わない。だが、本当に、Aさんにはすることがないのだろうか? 誰だって、年を重ねれば体の自由もきかなくなり、できることが限られてくる。にもかかわらず、90歳過ぎてても脳の衰えを感じさせない超高齢者もいる。そんな皆さんは、ちよっとだけ面倒で、ちよっとだ

楽しんでやれば衰えず

けしんどいことを楽しんでいるようにみえる。それも、続いてやれることならなんでもよさそうだ。

おっと、酒を飲んでだらしない寝込んでいるダメ爺さんの将来も暗い。そこでワッシーも、一念発起だ。生涯現役で医者を続けることにした。医者の仕事は、一見、楽そうにみえる。が、実は、そうでもない。医者も、患者さんから信頼されれば元気になるが、文句ばかり言つひとや、行儀の悪い患者さんもいる。だが、そのちよっとしんどいところが、また良いのである。

(石黒修三 しいしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住)